

板橋区の基本目標について

事務局案

前回の基本目標を維持しつつ、以下の２点で見直します。

- 1 障がい児福祉計画も含む計画であり、新たに育成の視点を加味します。
- 2 ３年前と比較し、地域共生社会が重視されており、基本目標の説明に、障がい者だけでなく、「すべての人」が自分らしく参画できる視点を加味します。

「一人ひとりが、自分らしく社会参画できる地域づくり」

障がい者が社会のあらゆる活動に参加し、地域における共生社会の実現に向け、めざす社会像を「一人ひとりが、健やかに育ち、自分らしく社会参画できる地域づくり」とし、この社会像を区民・事業者と行政とで共有するものとします。

「自分らしく」とは、障がい者の立場からみれば、自らの責任と判断のもとに、自分の生活や生き方を自己選択・自己決定し、その人らしく暮らすことを意味します。障がいがあっても、適切な支援を活用しながら地域の中でともに暮らし、ともに支え合いながら暮らせる社会の実現が望まれます。障がいを持って生まれたとしても、障がいを早期に発見し、本人の最善の利益を考慮しながら、どのような配慮と支援が必要かを関係者が共有し、健やかに育つための支援が必要です。

「社会参画できる地域づくり」には、障がい児が健やかに育つよう、障がい者が自ら望む生活のあり方を選択できるよう、サービス基盤を重点的に整備するとともに、重度・重症の障がいがあっても、可能な限り地域で生活し続けられるよう、地域生活を支援する体制を整備することが求められます。また、基本的な福祉ニーズを公的な福祉サービスで対応しつつ、関係諸機関が相互に連携し、自助・共助・公助により、その人の社会参画を支えることも重要です

障がい者が、その能力や個性を最大限に発揮して、その人らしく安心して暮らせるよう、障がいのあるなしに関わらず、地域のあらゆる住民が、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことができる地域共生社会を、みんなでつくっていきます。

※児童福祉法では、「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない（第１条第１項）」と定められ、また、障がい福祉計画策定の指針では、「障害児支援を行うに当たっては、障害児本人の

最善の利益を考慮しながら、障害児の健やかな育成を支援することが必要である」と記されています。

※板橋区では、昨年度「板橋区ユニバーサル推進計画 2025」を策定し、すべての人にとってくらしやすい地域社会の実現を目指すユニバーサルデザインの考え方を重視しています。また、障がい福祉計画策定の指針では、『地域のあらゆる住民が、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高めあうことができる地域共生社会』の実現を目指しています。